

〔目的〕セーター類は家庭において取り扱いに注意を要する衣料のひとつである。このセーターに関してよりよい手入れのあり方について考えるため、所有セーター類（カーディガン、ベストを含む）の実態と取り扱いの意識について調査を行った。

〔方法〕昭和61年2～3月に主婦及び女性単身者計200人を対象にセーターの手入れに関する意識・実態についてのアンケート調査を実施、さらにその中の100人に家庭で所有されているセーター類一枚ごとの組成繊維、絵表示、手入れ法等を留置法で調査した。

〔結果〕①セーターの素材は、着用者の年齢によって毛の混紡率が異なり、大人のは毛の割合が高く、子供のは化繊の混紡率が高い。また、毛の混紡率が高いとドライ表示が多くなる。②毛の混紡率や値段が高いもの程、ドライに出す割合が高い。実際の手入れは、絵表示に従っているものが多いが、ドライ表示でも約3割のセーターは手洗い等、家庭洗たくがされている。一方、手洗い可の表示でも、約3割がドライに出されている。③ドライに出す主な理由は、「縮んだら困る、値段が高い、獣毛なので」等であり、手洗いする時は、収縮や型くずれを心配する人が多い。④手入れの意識は、女性単身者と主婦でかなり違いがみられ、女性単身者では「失敗するよりクリーニング」という人が多いのが特徴になっている。全般的に「上手に洗えるならおしゃれ着も自分で洗いたい」「もっと頻繁に洗いたい」という人が多いが、上手に洗える自信がある人は非常に少なく、約半数の人が上手に手洗いする情報を求めていることがわかった。これらの結果から、今後「上手な手洗いの方法」等の情報を積極的に提供していく必要があると考える。